

氏名	小平 朋江 (学籍番号 10D007)		
学位の種類	博士 (看護学)		
学位記番号	第 8 号		
学位授与年月日	2013 年 3 月 12 日		
論文題目	精神看護学教育における統合失調症に対する偏見低減に効果的な ナラティブ教材を活用した教育技法の確立		
論文審査担当者	委員長	新 宮 尚 人	教授
	委員	渡 邊 順 子	教授
	委員	濱 松 加 寸 子	教授
	委員	木 下 幸 代	教授
	委員	小 島 通 代	教授

論 文 要 旨

研究目的

本研究の目的は、精神看護学教育における、統合失調症に対する偏見低減に効果的なナラティブ教材を活用した教育技法を確立することである。ナラティブ教材とは、患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語が表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進し、助けになる目的で看護基礎教育などに利用されうる形に教材化されたものと定義される。

研究デザイン

本研究は「準実験的方法」「伝記分析法」「テキストマイニング法」によるトライアングレーションデザインで、次の4段階で構成される。

【第1研究：闘病記や手記の探索研究】

ナラティブ教材になる闘病記や手記を探索する。闘病記ライブラリーなどの Website、精神看護雑誌などの情報から検索や収集を行い、リスト化し特徴や媒体の種類などに着目し分類する。

【第2研究：偏見低減効果を検証する準実験的研究】

看護大学2年生と一般大学学生にナラティブ教材を活用し効果を確認する。精神障害者に対する態度 (AMD) 測定尺度 (北岡 (東口), 2001) を用い、準実験で統合失調症のイメージと社会的距離を測定し変化を確認する。感想文を事後に回収し学生の受け止め方をテキストマイニングで定量的に明らかにする。

【第3研究：闘病記の構造の質的量的分析】

古川 (2001) の『心を病むってどういうこと? : 精神病の体験者より』をテキストマイニングと伝記分析法 (西平, 1983) の考え方で、質的量的に内容を分析し物語の構造を可視化する。

【第4研究：教育技法確立のための実践的研究】

看護大学2年生に第1研究から第3研究の成果をエビデンスに授業でナラティブ教材を実際に活用し、教育技法を確立する。感想文や統合失調症に対するイメージなどを自由記述させテキストマイニングで学生視点での評価を得て効果を分析する。

結果

1) 闘病記や手記の探索研究【第1研究】

リスト化した 217 冊の統合失調症の闘病記は多様な表現形態を持ち、増加の要因は時代背景とも関連していた。症状や障害の特徴、精神医療の在り方や当事者活動の方向性も示唆され、偏見低減に効果的なナラティブ教材であることが明らかになった。

2) 偏見低減効果を検証する準実験的研究【第2研究】

5 種類の教材を用い 4 つの実験で AMD 尺度により偏見低減効果を確認した。研究協力者は看護大学生 220 名、2 大学の文系大学生 382 名の計 602 名。教材提示によるマイナスの影響も含めた多様な教育効果に加え統合失調症を生きる人をアクチュアルに理解でき、偏見低減効果のある教材であることが分かった。

3) 闘病記の構造の質的量的分析【第3研究】

古川（2001）の各章ごとの特徴が明らかになり、病いの体験と周囲の人や一般社会に対して理解を求めるポジティブで具体的なメッセージが確認された。間接的に当事者の生きる姿と実際の関わり方を知ることができ、偏見低減に効果的な教材であることが分かった。

4) 教育技法確立のための実践的研究【第4研究】

看護大学 2 年生、延べ 595 名にナラティブ教材を用い、統合失調症イメージを自由記述させた。テキストマイニングの評判分析の結果、統合失調症が回復した姿のイメージを持つことを可能にし 偏見克服として意味のある学びの経験になることが分かった。

成果と解釈

学生の統合失調症イメージの変化と偏見への気づき、共感的理解の促進が明らかになった。中山（2004）の「経験を知に変換する知識創造」モデルにナラティブ教材を位置づけた通り、当事者が語る病いの経験から得た知恵の共有は、「リアリティ」と「アクチュアリティ」（木村，1994）が程良くあり偏見低減効果がある。当事者視点の統合失調症を病む体験と回復する姿を学んでいくと考えられた。

結論

- 1) 統合失調症闘病記をリスト化することにより、多様な表現形態と増加した要因には時代背景が反映することが判明した。
- 2) ナラティブ教材は統合失調症を生きる人をアクチュアルに理解でき、偏見低減効果のある教材である。
- 3) ナラティブ教材は対象理解や関わり方を知るきっかけを提供し偏見低減効果のある教材である。
- 4) ナラティブ教材で統合失調症が回復した姿のポジティブなイメージを持つことが可能になり共感的理解が促進される。
- 5) ナラティブ教材活用で統合失調症イメージの改善が学生の視点で明らかになった。

論文審査の結果の要旨

本研究は、精神看護学教育における、統合失調症に対する偏見低減に効果的なナラティブ教材を活用した教育技法を確立することを目的として、質的、量的に効果を検討したものである。

最初に、闘病記ライブラリーなどの Website、精神看護雑誌などの情報から検索や収集により、217冊のナラティブ教材をリスト化した。次にその教材を用いて 602 名を対象とした授業を実施し、偏見低減効果の確認がなされた。さらに、テキストマイニングと伝記分析法（西平，1983）により、闘病記の内容を質的に分析し物語の構造を可視化した。最後に、看護系大学 2 年生を対象に、ナラティブ教材を用いた授業を実施し、統合失調症イメージを自由記述させた。テキストマイニングの評判分析の結果、「統合失調症が回復した姿のイメージを持つことを可能にし、偏見克服として意味のある学びの経験になること」を導き出した。

審査においては、トライアングレーション（結論を導くために複数の情報源や参考資料を用いる方法）を選択した意図の確認と、ナラティブ教材を用いた授業には具体的にどのような効果があったのか、ということが中心に質問された。その結果、データの客観性を保持するために量的調査を行うなど慎重な手続きをとっていることや、ナラティブ教材そのものを質的に細かく分析している点で新規性があり、博士論文における研究として十分価値のあるものとして評価された。

今回の研究結果を踏まえ、今後の研究の方向性として、教育教材に留まらず、当事者が利用可能なものに発展させたいという考えも示され、今後の展開にも期待が持てる。

以上の結果から、審査委員会委員全員により、本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認められた。